

## 外国語活動・外国語科研究部

### I 研究主題

4 技能への積極的な態度の育成と学びの連続性を図る授業の工夫改善

### II 主題設定の理由

現行の学習指導要領は、「小・中・高等学校を通じて、言語や文化への理解を深めること」、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること」、「4 技能を総合的に育成すること」をねらいとして改訂された。改定後、本市研究員研究でも様々な取組がなされ、授業形態や指導内容の工夫改善を行ってきた。

特に小学校では、外国語活動の「教科化」が目前に迫ってきているため、支援員も含め、学級担任が、「話すこと」「聞くこと」を中心としながらも、「読むこと」「書くこと」も含めた外国語に慣れ親しむ授業づくりに努力を重ねている。しかし、中学校では、学区の小中学校での取組をなかなか把握できていないのが現状である。

そこで、本研究部では、小学校での「教科化」「中学年での指導」及び中学校での「外国語活動からの連続性」をキーワードに研究を進めることで、より充実した授業の工夫改善ができると考え、本主題を設定した。

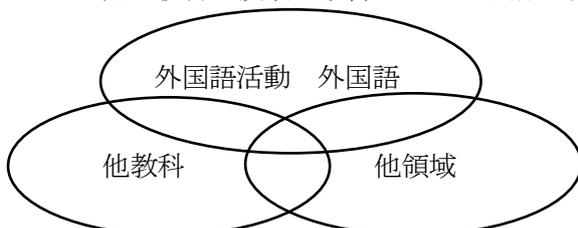
### III 研究の内容

1 小学校中学年から中学校 3 年生までの各発達段階に応じて 4 技能を総合的・系統的に扱う縦の連続性を活かした指導の工夫

小学校低学年	L/S	現行では「聞く」こと「話す」ことを中心に外国語に慣れ親しむ授業を展開している。		
小学校中学年	L/S			
小学校高学年	Listening	Speaking		
中学校 1 年生	Listening	Speaking	Reading	Writing
中学校 2 年生	Listening	Speaking	Reading	Writing
中学校 3 年生	Listening	Speaking	Reading	Writing

小学校低学年	L	S	A	「教科化」に向け「書く」活動、文字（アルファベット）指導の導入を試みた。	
小学校中学年	Listening		S		A
小学校高学年	Listening		Speaking	A(R/W)	
中学校 1 年生	Listening		Speaking	Reading	Writing
中学校 2 年生	Listening	Speaking	Reading	Writing	
中学校 3 年生	Listening	Speaking	Reading	Writing	

2 他の教科・領域で学習したことを活かす横の連携性を充実させた指導の工夫



他教科・他領域で学習したことを教材として使用することで、教師の準備時間が短縮できる。また、子どもの知識・理解を広め、深めることにつながる。

## IV 実践例

特に以下の4点について考慮し、指導案を作成し実践授業を行った。

- ① 小学校での「文字（読むこと、書くこと）」の指導についての検討及び指導形態の工夫
- ② 外国語活動では教師が使用する表現を限定し、繰り返し「聞く」授業の工夫
- ③ 他教科・他領域で学んだ知識を活用し、児童生徒の知識・理解を深める指導の充実
- ④ 小学校外国語活動との連続性を考慮した中学校での指導（入門期）の工夫

### 1 小学校中学年【4年生】

- (1) 単元名 It's a purple cat.
- (2) 単元の目標 ある物が何色の何かという表現に慣れ親しむ。【外国語への慣れ親しみ】
- (3) 本時の展開（第1時／1時間）

過程 (時間)	児童の活動	担任の活動	○指導上の留意点 ◎教材・教具◆評価
挨拶 (2)	・あいさつをする。		○気持ちよいあいさつする。
	<p>T: Let's start the English lesson. Hello, everyone. How are you?</p> <p>S: Hello. S: I'm fine, thank you.</p>		
導入 (15)	<p>①文字指導 児童の自由な発言を誘う文字遊びを帯活動で取り入れる。今後の読み書きの活動につなげられるような素地を作っていく。</p> <p>②繰り返し聞く アルファベットソングを何度も聞かせるようにする。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌を歌う。 ♪Alphabet Song♪</li> <li>・イメージするアルファベットを言う。</li> <li>・「これ何の文字」ゲームをする。 What is this?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板にアルファベットを書きながら一緒に歌う。</li> <li>・アレンジしながら数回一緒に歌う。</li> <li>・「○○そうなものは何か」を問う。</li> <li>・アルファベットの一部を見せて問題を出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌いながら黒板に書いたり、順番を入れ替えたりして何度も歌う機会を作り、形と音を一致させるようにする。</li> <li>○児童のイメージしたものを自由に言える雰囲気を作る。</li> <li>○色々な文字を推測し口にするのできるようにする。</li> <li>◎ピクチャーカード</li> </ul>
展開 (23)	・今日のめあてを知る。	いろいろな色の動物がいっぱい！	
	<p>③他教科との関連 図画工作で活用できるよう混色の関係を取り入れる。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙を使用して、色の表現を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙を用いて、色を提示していく。</li> <li>・テンポよく色の確認ができるよう教師が発話する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○類推しながら色の表現が復習できるよう、混色の関係なども使用する。 ◎折り紙</li> </ul>
	<p>②表現を限定 担任が話す英語を絞り、何度も聞かせるようにする。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物、色あてクイズをする。</li> <li>・当てることが目的ではなく、What is this?/ What color is this? It's~.を聞かせるように、何度も繰り返しながら言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物シルエットを用いて問いかけをし、答えを伝えていく。</li> <li>・白黒動物を用いて何色かを問いかけ、色を答えていく。</li> <li>・色+動物を組み合わせた表現を繰り返し言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「色+動物の名前」の組み合わせを意識させられるようにする。</li> <li>◎ピクチャーカード</li> <li>◆ある物が何色の何かを答えている。&lt;行動観察&gt;</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌を歌う。</li> <li>♪ Brown bear ♪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんなことが聞こえたか質問する。</li> <li>一緒に歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全て歌えなくてよいので、「色+動物の名前」の組み合わせを意識させる。</li> <li>◎CD</li> </ul>
まとめ (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動を振り返る。</li> <li>あいさつをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいに沿ってできたかを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎振り返りカード</li> <li>○気持ちのよいあいさつする。</li> </ul>
<p>T: That's all for the English lesson. Thank you.      C: Thank you.          You're welcome. Let's have a break.</p>			

(4) まとめ

【成果】文字の扱いについては、繰り返し帯活動で行うことで、子どもが自然と文字の形と音が一致するようになった。1時間の中で、同じ表現を何度も繰り返すことで子どもにとって十分なインプットが確保されると共に、教師にとっても扱う表現が限定され負担なく授業が行えた。十分なインプットにより、子どもからの自然な発話にもつながった。また、歌を活用することは、子どもにとって馴染みやすく、外国語の音に慣れる面で非常に効果的であった。

【課題】繰り返しインプットすることが必要だからこそ、他学年との系統立てた指導計画の必要性がある。また、中学年において、文字の扱いをどの程度まで進めるのか検討していく必要がある。

2 小学校高学年【5年生】

(1) 単元名 What do you like?

(2) 単元の目標

色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。【外国語への慣れ親しみ】

(3) 本時の展開 (第4時/4時間)

	児童の活動	T1の活動	T2の活動	・指導上の留意点
あいさつ (1)	1 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつする。</li> </ul> <p>Hello, everyone. How is the weather?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつする。</li> </ul> <p>Hello, everyone. How are you?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体調を尋ねたり、これまでに学習して答えられる質問をしたりする。</li> </ul>
導入 (10)	<p>①文字指導 Hi, friends! Plus を活用し、アルファベットを発音したり、隠れているアルファベットを形から見当をつけて当てたりするクイズを毎時間の帯活動として取り入れる。</p>			
	2 ウォームアップ ・アルファベットクイズ (帯活動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT を活用し、チャンツやアルファベットクイズでアルファベットに慣れ親しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童と発音したり、歌ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した What do you want? で問いかけ、○○, please. で答えさせるようにする。</li> </ul>

<b>②表現を限定</b> 使用する英語を絞り、何度も聞かせられるようにする。				
	3 前時までの復習 What color do you like? What shape do you like? What sport do you like?	・ What ○○ do you like?で数名の児童に尋ねる。	・ 答えられた児童を称賛する。	・ 児童が答えた英語を繰り返すようにする。
展開 (30)	4 本時のめあてを確認する。 《めあて達成に必要なキーワード、キーセンテンス》 ・ What shape do you like? ・ How many? ・ What color do you like?	<b>好きな色、好きな形をたずね、友達に T シャツを作ろう。</b>		
	5 T シャツ作り ①デモンストレーションを見る。 ②T2 と児童全員 ・ T2 に質問し、その答えに応じた T シャツを作る。 ③児童同士 ・ 座席の隣同士(男女) ・ 自由ペア (× 2)	ジャンケン勝者(先) What shape do you like? How many? What color do you like? ※役割交代 ・ 児童にワークシートを配る。	ジャンケン敗者(後) I like ○○. ○○(数字), please. I like ○○ and ○○. ※役割交代 ・ 児童からの質問に答える。	・ これまで学習してきた「What~do you like?」「I like~.」を活用して T シャツ作りをすることを確認する。  ・ 児童に分かりやすいよう明確に行う。 ①お互いに質問し合ってから T シャツ作りをする。 ②時間を見ながら色ぬりをする。 ③カリスマデザイナーの証として T シャツにイニシャルを残す。 ④事前に作っている自分の T シャツと見比べる。 好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。(行動観察・ワークシート)
	<b>①文字指導</b> 前單元では、アルファベットを書く学習を行った。本單元もそれを生かし、ただ T シャツを作るだけでなく、自分のイニシャルをアルファベットの大文字で入れるという「書く」活動を取り入れた。			
まとめ (4)	7 振り返り  8 あいさつ	・ 今日よくできていたことを称賛する。	Goodbye, everyone.	・ めあてに向かうための英語が使えたかをよく振り返らせる。 ・ ワークシートを回収。

(4) まとめ

【成果】 帯活動として毎時間アルファベットに親しませることによって、子どもはアルファベットの形と音を認識できるようになった。また、アルファベットの一部分を見ただけでも何かを見当がつけられるようになっている。それに加え、授業の始めのルーティーンとして取り入れることで、子どもは外国語活動への心の準備ができていように感じる。クイズ形式で楽しいため、その後の活動にもよい影響を与えている。

二つの単元で『書く活動』を取り入れた。『書く活動』は、アルファベットの形と音の認識をさらに高めたように感じる。また、授業でアルファベットを書く体験をさせてから、英語を書くということに興味をもった子どもが多く、家庭学習でアルファベットや英語を書いてくる子どもが増えた。

【課題】 Hi, friends! Plus に入っているアルファベットのワークシートを活用して『書く活動』を行った。その授業の子どもの振り返りには、「覚えることが多くて大変だった。」「たくさん書くのは嫌だった。」というような言葉も見られた。教師のねらいは「書いてアルファベットに慣れ親しむ。」というもので、子どもにも示したが、少なからず「覚えなくてはいけない。」という気持ちを子どもはもったようである。また、毎時間行っている、「聞く」「話す」という活動ではない、「書く」活動を苦痛と感じる子どももいたようである。ただ書かせるだけでなく、ねらいをより明確に示し、楽しく書く工夫が必要である。

### 3 小学校高学年【5年生】

(1) 単元名 What do you like?

(2) 単元の目標

色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。【外国語への慣れ親しみ】

(3) 帯活動例

時	目標と主な活動	評価			
		コ	慣	気	評価規準
1	日本語と英語の音の違いに気付き、色や形の言い方を知る。 ○歌 Do you know the Muffin Man? ○文字遊び (ABC ソング) ○クラス (班) の旗を完成させる。				・日本語と英語の音の違いに気付いている。
2	スポーツの言い方に慣れ親しみ、好きなスポーツは何かを尋ねる表現を知る。 ○歌 ○文字遊び (Hi, friends! Plus) ○スポーツの言い方を知る。 ○オリンピックスポーツの人気投票をする。				・日本語と英語の音の違いに気付いている。 ・好きなスポーツを聞いたり、言ったりしている。
3	形の言い方や、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。 ○歌 ○文字遊び (Sit down game) ○形の言い方を知る。持ち物や教室内で形を探す。 ○友だちに好きな色、好きなスポーツ、好きな形を聞く。				・色や形を聞いている。 ・好きな形は何かを尋ねたり答えたりしている。
4	友だちにインタビューをし、好きな形や色を尋ねたり答えたりする。 ○歌 ○文字遊び (ABC ソング) ○ペアの人の T シャツを作る。				・進んで好きなものを尋ねたり、答えたりしている。

(4) 本時の展開 (第4時 / 4時間)

過程 (時間)	児童の活動	教師の活動	◇指導上の留意点 ◆評価
あいさつ (1)	1 あいさつ		
導入 (15)	2 歌 Do you know the Muffin Man? を歌う。  3 絵本 Ketchup on your cornflakes? の読み聞かせを聞く。	・ Do you like ketchup on your cornflakes?の読み聞かせをする。	◇歌えるところだけ一緒に歌うよう助言する。  ◇すぐに絵を見せずに、何度か英語を聞かせてから絵を見せる。
①文字指導 アルファベットの並びを見せながら歌うことで、視覚的にも学習できるようにする。			
	4 文字遊び ①ABC ソング を歌う。	・ ABC ソングを歌いながら、A-Z まで書く。児童に What letter do you like?と聞き、答えた文字を抜かして歌う。	◇黒板にアルファベットを書き、児童が見ながら考えられるようにする
①文字指導 身の回りにはアルファベットでできている言葉があることを気付かせ、文字に親しみを持てるようにする。			
	②アルファベット3文字のできる言葉を探す。例) DVD,LED…	・ 例を提示し、アルファベット3文字のできる言葉を探させる。	
展開 (25)	5 めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">どんな色、どんな形がすき？</div>		
②表現を限定 使用する英語を絞り、何度も聞かせられるようにする。			
	6 Tシャツを作る。 メモをとりながら友だちの好みを聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">What color do you like? What shape do you like? How many (stars)?</div>	・ 手本を見せ、互いに質問し合うことを知らせる。 ・ 教師が見本でTシャツを作る。児童に尋ねながら、Tシャツを作ることを知らせる。	◆好きなものは何かを尋ねたり、答えたりしている。 ◇お互いに質問し合ってから、Tシャツのデザインをするよう助言する。
まとめ (4)	7 振り返り 今日学んだ英語をもう一度言う。 振り返りカードを書く。  8 あいさつ		

(4) 児童の振り返りカードから

同じアルファベットでも、  
発音がにているLMN  
物があることがわかった  
列車の駅にはよる文  
字にリクとされた物が  
多いことがわかった

A~Zまでの似ている 言いかたのものか いはいあ、てびくり	どの文字が むかししいかな？
アルファベットの3文字 を見つけて、考えてみ たらいはいあ、てび	ちよと似ている 見つけたと てびくりある てびくりました

ABCには、にている 発音があ、てびく りか、うという事を 三文字で言葉を表して いる英語があり、BBA やSOSAと口から口に 番最初や音の始めは	横兵 いはいあ、 あはら、い てびくりました ちよと てびく あ、てび あ、てび あ、てび
--	---

アルファベットはいろ んな所にあるんだな と思いました。馬尺など	にあるこ とは初めて 知りました。
--	-------------------------

三文字の英語はい っぱいあると思いました。 二文字とかもわかった。
---

(5) まとめ

【成果】毎回の授業で文字を見たり発音したりする時間を設けたため、だんだんと文字に慣れていく子どもが多かった。毎回5~10分でできる活動なので、教材準備の時間もかからず簡単にできた。ABCソングをA~Zまで歌ったことがない子どももいたため、ABCに触れる機会が多くなった。アルファベットは黒板に書くことによって視覚的に、さらに歌うことによって聴覚的に学習ができ、発音が難しい文字や似ている形、発音の文字があること、などに子ども自身が気付くことができた。

3文字探しでは「ふだんから口にしていない言葉もあってびっくりした。」「考えてみたらいはいああった。」「2文字などもやりたい。」と、身の回りにアルファベットがあることに気付いた子どもが多かった。また次もやりたい、という意欲につながり、楽しく文字を学習することができた。

【課題】3文字探しは1度行くと、繰り返してできる活動ではないため、飽きがきてしまう。子どもがさらに文字について考えるような手立てが必要である。

歌についても、活動が単調にならないようメロディーを変えたりA~Zを逆さまから歌ったりなど、毎回取り入れるためには工夫が必要である。文字に親しみを持つことができたが、中学校の「書くこと」につながるかどうかは検討する必要がある。

4 中学校1年生

(1) 単元名

SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 Power up Speaking 4 時刻をたずねる

(2) 単元について

本課は **What time is it?** で今の時刻をたずねるパターンと、**What time** + 一般動詞で「何時に～するのか」具体的な動作をする時刻をたずねる2つのパターンを同時に学習する。これらの内容は小学生の時に **Hi, friends! 2** の **Lesson6 “What time do you get up?”** で既に学習している。また、所沢市の学びノートDVDを用いた授業も小学生のときに行っているので子どもには親しみやすい内容である。よって本研究の事例として用いた。さらに「～時に・・・する」という答えにあたる部分は日記などで使うので書くことも今回の目標に入れた。この授業を実施したのは9月半ばであり、まだ子どもは「書くこと」を始めたばかりである。大量の文を一人で書くことには大きな不安を持ち、なかなか書けない子どももいるので友達と4人グループで共に書く作業をし、作品として作成する。それをまた別の友達に見てもらおうという活動を行った。書くのが苦手な子どももアイデアを出すのが得意な場合があり、共に考えることはよい学び合いとなる。そして小学校で楽しく学んできた話すことの意欲を書くことへの意欲とつなげたい。

④小学校とのつながり 「マイムタイム」「おはなシアター」を見せて導入し、「チャンツチャンツ」で練習。Hi, friends! 2 Lesson6 の Let's play2 「おはじきゲーム」でたくさんの表現を復習。その後中学校の教科書へ。

(3) 単元の計画

時間	○学習内容	○小中のつながり
第1時	○What time～?とそれについての答えの文を聞いて会話の内容を理解できる。 ○What time～?で尋ね、聞かれた時刻を口頭で答えられる。(自分の一日の生活)	○学びノートDVD「6年生 Lesson7」 ○Hi, friends! Lesson6 授業の導入として「話すこと」の復習
第2時	○What time～?を使って理想の学校生活の一日の流れを話し合い、書いてまとめる。	○小学校で身に付けたフレーズを用いて、学校生活の一日の流れを考え「書く」。

(4) 単元の目標

「何時に～する」という理想の学校生活の一日の流れを、書いてまとめることができる。

【外国語表現の能力】

④小学校とのつながり 小学校で楽しく学んだ「話すこと」を生かして書いてみる。書くフレーズは小学校で話してきたことが主なので内容は既に理解しており、書いてみたいという意欲につなげる。

(5) 展開

過程	学習活動・学習内容	・指導の留意点 ○評価
ウォーミングアップ (10)	<p>1 Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ・曜日・日付・天気の確認を生徒同士のペアで英語で行う。</li> </ul> <p>2 Song</p> <p>“Daydream Believer”</p> <p>3 復習① アクションカードで復習</p> <p>4 復習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・What time の疑問文と答えを書く復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の雰囲気作り。元気に答えさせる。</li> </ul> <div data-bbox="655 398 1406 555" style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>④小学校とのつながり 前の時間に学びノートDVD、Hi, friends!で復習したフレーズを、中学校の教科書のアクションカードでさらに練習、表現を増やす。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の定着を図り、本時の内容にスムーズに入れるようにする。</li> </ul>
展開 (37)	<p>5 本時の目標を提示する。</p> <div data-bbox="284 763 858 808" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>理想の学校タイムスケジュール考えよう。</p> </div> <p>(1) ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理想の学校の名前・校章も書く。</li> <li>・理想の学校のタイムスケジュールを書く。</li> </ul> <p>(2) どの学校が一番いいか投票する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で理想の学校1校にまとめた作品を教室の前黒板・後黒板に掲示し、生徒個々に理想の学校を選び、投票する。</li> </ul> <div data-bbox="308 1167 858 1323" style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生徒から出てくる予想される表現。下線は小学校の時に学びノートDVDやHi, friends!で学習しているもの。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JTE・AET・生徒でインタラクティブをしながら活動の内容をつかませ、答え方を確認する。</li> <li>・学校生活で使いそうな表現を生徒から出させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>get to school</u>    ・ <u>start lesson</u></li> <li>・ <u>study</u>            ・ <u>swim</u></li> <li>・ <u>eat lunch</u></li> <li>・ <u>clean our classroom</u></li> <li>・ <u>go home</u>        ・ <u>watch TV</u></li> </ul> <p>○間違ふことを恐れず、英語で自分の考えなどを書こうとしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出事項が使えているか、机間指導で確認する。</li> </ul> <p>○What time~?の正しい形・意味・用法を理解して尋ね、答えを正確に書けるか。</p>
まとめ (4)	<p>6 Consolidation</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいを確認し生徒にまとめを発表させる。</li> <li>・教師から評価する。</li> <li>・あいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時を振り返る。</li> <li>・自己評価カードの記入をする。</li> </ul>

(6) 生徒の授業の感想

- ・トコトコDVDが懐かしかった。思い出した。
- ・小学校で勉強した内容なのでわかりやすかった。
- ・話せるけれど、書くとなると難しい。
- ・at というのが「～(時)に」という意味が文字を見てわかった。
- ・おもしろい学校ができた。
- ・時間は言ったり書いたりできる。
- ・書くときに at を忘れそうになった。

## (7) まとめ

今年1年生を担当して、英語の力が高いことにとっても驚いた。小学校でたくさんの表現で楽しく「話し」てきているので、あいさつ・天気・曜日など簡単な英語の質問にはほぼ全員がさらりと答える。子どもの意欲をさらに高め、書いたり読んだりする能力をつける授業とは、と悩んだ。そこで、今回のように小学校の教材を用いた授業を行ってみた。すると子どもたちは、「知ってる。見たことある。」と反応がよく、Repeat after me.と言わなくてもDVDを見ながら自然と発音し、笑いながら理解している。

今まで中学校の教員として、外国語科の入門期はどうしよう、と悩んできた。しかし、小学校で慣れ親しんできているので、導入で悩むより小学校外国語活動の復習をした方が子どもの定着につながると感じる。親しみやすい内容で同じことの繰り返しができ、子どもの理解度もわかる。また、「小学校のときに頑張って勉強してきたね。」と褒めることもできた。

ただ、中学校からの「読む」「書く」ということへのハードルは高いようだが、「小学校で話してきたことを書いてみようよ。」と促すと、意欲をそがずに、挑戦しようとしている。

小学校の外国語活動を知ること、更に子どもの可能性を深め、広げることができると強く感じた。今後も小学校の授業参観などを通して、中学校教員が外国語活動をより理解し、外国語活動で子どもたちが慣れ親しんだ題材を活用して小中の接続がうまくできるようにしていきたい。

## V 研究のまとめと今後の課題

小学校外国語活動では、教科化に向け「文字指導」という新たな取組について検討、実践できた。また、他教科・他領域で学習した内容を踏まえた活動を行うことで、各担任が子どものニーズに合った題材を提供でき、安心して授業ができるよう、工夫できたことは大きな成果である。

小学校で外国語に慣れ親しんできた子どもたちは、中学校での外国語科の授業開きから、簡単な英語でのスムーズなあいさつ、自己紹介を堂々とやって見せる。これからどんな授業が始まり、どんなことができるようになるのだろうと、意欲で満ちあふれている。この子どもたちが、「書くこと」や「読むこと」に戸惑い、外国語活動と同じような活動に飽きてしまわぬよう、中学校での授業形態や指導内容の工夫が実践できたことは成果の一つである。

各中学校でも、学区の小学校との連携を密にし、「教科」として子どもたちが小学校で学習する内容を理解する必要がある。小学校での学習内容の復習を導入ととらえ、中学校の授業で活用、発展へとつながるような授業形態や指導内容の工夫改善が今後の課題と考える。

### 生徒の作品

